

山田寅次郎（八六六―一九五七） 十五歳、茶道宗廟流家元の養子になる。東京薬学校現、東京薬科大学卒業後、語学を学ぶ。幸田露伴、尾崎紅葉、福地櫻痴など文化人と交流。日本初のタウンページ「東京百事便」を発行。トルコ軍艦エルトゥールル号海難事故の義捐金を届けるためトルコへ。オスマン帝国アブドゥルハミト一世に謁見。トルコに約二十年滞在。トプカプ宮殿内東洋美術の分類、日土貿易を行っていた伊東忠太、徳富蘇峰などとトルコ訪問する日本人のサポートをした。日露戦時、日本政府の依頼でボスボス海峡近くから「バルチック艦隊」の動静を見張る。日本に製紙会社設立し事業家として活躍後、五十七歳、茶道宗廟流八世家元襲名。

トルコに渡り民間交流を深めた、幕末生まれの茶人 山田寅次郎研究会 2016

建築巨人、伊東忠太と夥しい数の書簡を交わし、明治の文豪、幸田露伴の小説のモデルとなり、オスマン帝国皇帝に茶道を伝え、現在もトルコで最も有名な日本人といわれる山田寅次郎とは一体何者なのか。明治という時代にあつて、自らの道を選んで豪快に生きた寅次郎の人生の楽しみ方を研究します。



山田寅次郎生誕150年記念 特別企画 ゲスト・コメンテーターの参加

今回の山田寅次郎研究会では、新しくゲスト・コメンテーターが加わります。第3回、11月4日(金)は、NPO「e-Education」創業者 税所篤快氏、第4回、12月16日(金)は、クリスティーズで活躍されている山口桂氏がコメンテーターとして加わり、現代の視点で山田寅次郎についてコメントをします。

トークプログラム

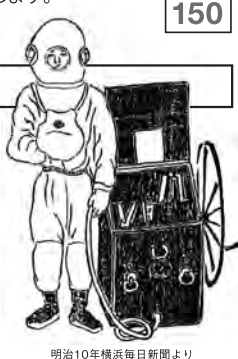
1. 山田寅次郎の横浜時代 ― エルトゥールル号の義捐金集めの動機を追って―

山田寅次郎が若き日、横浜で過ごした日々を追うことによって、エルトゥールル号海難事故の際に、義捐金集めを志した動機を知ることができると思い、資料を駆使してその事実を探ってみた。

2016年8月23日(火) 19:00～20:30

講師：一木一郎（元一木真珠代表）

○いちいちろう 元アラフラ真珠株式会社取締役、元一木真珠代表1943年和歌山県生まれ。中央大学大学院文学研究科博士課程中途退学。「藤原朝考」(同信)「BANYAK400貫」(アラフラ真珠株式会社)「房総半島のカツオ引き縄漁」(房日新聞)「潜水夫番付」と増田尚吉」(房日新聞)「賀川純一伝」(雲の柱)



明治10年横浜毎日新聞より

2. 実業家としての山田寅次郎の軌跡

山田寅次郎については、これまで1890年に起きたトルコの軍艦エルトゥールル号の遭難事件後イスタンブルに渡り、彼の地で商人として活動するようになった面が主として語られている。しかし、今回の講演では第一次世界大戦が勃発した1914年日本に帰国し、その後トルコでの経験を生かしてシガレット・ペーパー等を製造する製紙会社の設立、経営に参画し、商人から実業家へと成長を遂げていく寅次郎の後半生に光をあてていきたい。

2016年9月30日(金) 19:00～20:30

講師：坂本勉（慶應義塾大学名誉教授）

○さかもとつとむ 1945年生まれ。69年 慶應義塾大学文学部卒業。75年同大学院博士課程単位取得退学。74年より同文学部にて中東イスラーム社会史を講じ、2011年定年により退職。現在慶應義塾大学名誉教授。主要著書として「トルコ民族主義」、「イスラーム巡礼」、「ペルシア紙巻の道」、「イスタンブル交易圏とイラン」等がある。



専売局タバコ試作品 山田家蔵

3. エルトゥールル号事件とトルコの山田寅次郎

山田寅次郎がトルコに渡るきっかけとなったエルトゥールル号事件の経緯と、寅次郎がこれにどのように関わったのか、さらにトルコに渡った寅次郎の現地での活躍についてお話しします。

2016年11月4日(金) 19:00～20:30 ゲスト・コメンテーター 20:30～

講師：山田邦紀（フリーライター）＋ 坂本俊夫（フリーライター）＋ ゲスト・コメンテーター：税所篤快（NPO「e-Education」創業者）

○やまだくにき フリーライター 1945年福井県生まれ。早稲田大学文学部卒業。夕刊紙「日刊ゲンダイ」に30年間勤務。現在はフリー。著書に「ポーランド孤児」「桜咲く国」がつないだ765人の命」(現代書館)、「明治時代の人生相談」(知冬舎)。共著に「東の太陽、西の新月―日本・トルコ友好秘話「エルトゥールル号」事件」、「明治の快男児トルコへ跳ぶ―山田寅次郎伝」(ともに現代書館)がある。

○さかかもとしお フリーライター 1954年栃木県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。著書に「シリーズ雑物語 宇都宮藩・高徳藩」、共著に「東の太陽、西の新月―日本・トルコ友好秘話「エルトゥールル号」事件」、「明治の快男児トルコへ跳ぶ―山田寅次郎伝」(ともに現代書館)がある。

○さいしよあつよし NPO「e-Education」創業者。1989年生まれ。東京都足立区出身。2009年、Bangladeshに渡り、同国初の映像授業「e-Education Project」を立ち上げ、4年連続で貧困地域の高校生を国内最高峰ダッカ大学に入学させる。現在はアフリカの未承認国家ソマリランドに活動を広げている。主な著書「最高の教室を世界の果てまで届けよう」(飛鳥新社)



エルトゥールル号遭難慰霊碑

4. 山田寅次郎著『土耳古画観』の再考

『土耳古画観』を改めて読んでみると、長期にトルコに滞在し生活した山田寅次郎だからこそ体験し気が付くことの出来たトルコ人社会の習慣や伝統、あるいはトルコ人の芸術観などが鮮明に記録されていることに驚かされます。それらの中には今日では失われてしまったトルコ社会の風習も多く含まれています。貴重な歴史資料としての『土耳古画観』の一端を、改めてご紹介したいと思います。

2016年12月16日(金) 19:00～20:30 ゲスト・コメンテーター 20:30～

講師：ヤマンラール水野美奈子（元龍谷大学教授）＋ ゲスト・コメンテーター：山口桂（クリスティーズ・ニューヨーク）

○やまらるーのみなこ 元龍谷大学教授・NPO日本トルコ交流協会代表・国際トルコ美術史学会常任理事 1944年東京都生まれ。慶應義塾大学文学研究科修士課程修了 イスタンブル大学にて文学博士号取得

○やまぐちかつら クリスティーズ・ニューヨーク、シニア・ヴァイス・プレジデント 1963年東京都生まれ。立教大学卒。2000年よりニューヨーク在住。専門は日本・韓国美術。現在国際浮世絵学会理事、アダチ木版画伝統技術保存財団理事。米国日本美術協会会員。



土耳古画観表紙 山田家蔵

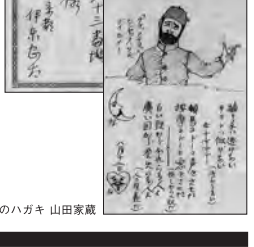
5. 山田寅次郎、伊東忠太、そして私たちにとっての「世界」

長年、伊東忠太の資料を発掘し、研究を進めてきた私にとって、山田寅次郎を単にトルコ一國との関係だけでなく、伊東忠太を建築の世界の話だけではなく捉えることは、大きなテーマです。歴史家の視点から明治～大正期という時代を掘りとり、二人の共通点に迫ることで、今、私たちにとっての「世界」を再考します。

2017年1月20日(金) 19:00～20:30

講師：倉方俊輔（建築史家／大阪市立大学准教授）

○くらたしゅんすけ 建築史家／大阪市立大学准教授 1971年東京都生まれ。早稲田大学大学院博士課程満期退学。伊東忠太の研究で博士号を取得後、編著に「吉祥寺ハモニカ横丁のつくり方」、「トコモン」、「吉阪隆正とル・コルビュゼ」。共著に「生きた建築大阪」、「東京建築 みる・あるく・かたる」。監修・解説書に「伊東忠太建築資料集」などがある。



伊東忠太からのハガキ 山田家蔵

- ☐ 全5回通し 参加費：6,000円[ご入金の方へ参加証を郵送してお送りします] 特典：期間中ご本人は何度でも展覧会へ御招待。
- ☐ 単回 参加費：各1,500円[ご入金の方へチケットを開催日3日前までにE-mail 又はFaxにてお送りいたします]

ご参加の方は、申込書<希望の回、氏名、連絡先（住所／電話番号／E-mail アドレス又はFax 番号）>をE-mail: order@watarium.co.jp または Fax: 03-3405-7714 へお送り下さい。同時に下記の口座へ参加費をお振込下さい。（申込書や受領確認の返信はいたしません。定員を超えた場合のみ連絡させていただきます。）

振込先：三井住友銀行 青山支店（普）1033281（名義）ワタリウム美術館

お問合せ／お申込：ワタリウム美術館 150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6 Tel：03-3402-3001 Fax：03-3405-7714
E-mail: order@watarium.co.jp http://watarium.co.jp